

第3回 香美市まちづくり委員会ワークショップ 視察報告書

2015年7月6日(火) 9:00~17:30 at 香美市内

「香美市を知ろう」

【目的】

土佐山田・・・ほっと平山を核とする持続可能な「つながり」の取り組みを探る

香北・・・アンパンマンミュージアム周辺が紡いできた「つながり」の広がりを知る

物部・・・大西地区の移住者が育む地域の「つながり」に触れる

【行程】

09:00 香美市役所集合

09:20 「ほっと平山」と周辺の視察、運営者との意見交換

11:00 平山を出発し香北町美良布へ移動

11:40 大川上美良布神社社務所まんが天井画の鑑賞

神社の活用についての意見交換

12:00 境内で昼食

13:00 「アンパンマンミュージアム周辺活性化協議会」と意見交換

14:00 美良布を出発し物部町大西地区に移動

14:30 「base works」到着。勝見さん夫妻（東京から移住）や
「山の石けん屋西熊家」の藤田さん（奈良から移住）ら、
地域の方々と意見交換

16:00 大西を出発し香美市役所へ移動

17:00 香美市役所帰着、解散

配布資料

- ・第2回報告書
- ・行程表
- ・視察先資料
- ・アンケート

以上を入れるために、平山の方々が作成した「しまんと新聞ばっぐ」を活用



土佐山田 ほっと平山を核とする持続可能な「つながり」の取り組みを探る

【地域の実情】

- ・現在約100世帯、200人いるが半数以上が高齢者でエネルギーがなくなってきた。
- ・世代交代がうまくいくのが肝心
- ・PTA活動が地域活動の中心となっている。
- ・連携しながら地域を売っていかなければいけない
- ・地域の「仕事・雇用」が足りていない。仕事選びたい！収入は多い方がいい！
だから仕事をつくり、収入を増やすことを目指している。

●集落活動センターに向けての取り組み

- ・現在集落支援員を募集中！
- ・維持管理が地域の負担だけになると荷が重い
- ・経営に関しては「地域」は素人なので、施策としての手助け、事業への手助けがほしい

●情報発信

- ・ホームページ、ブログ、通信発行、フェイスブックなど、地域を知ってもらうための工夫

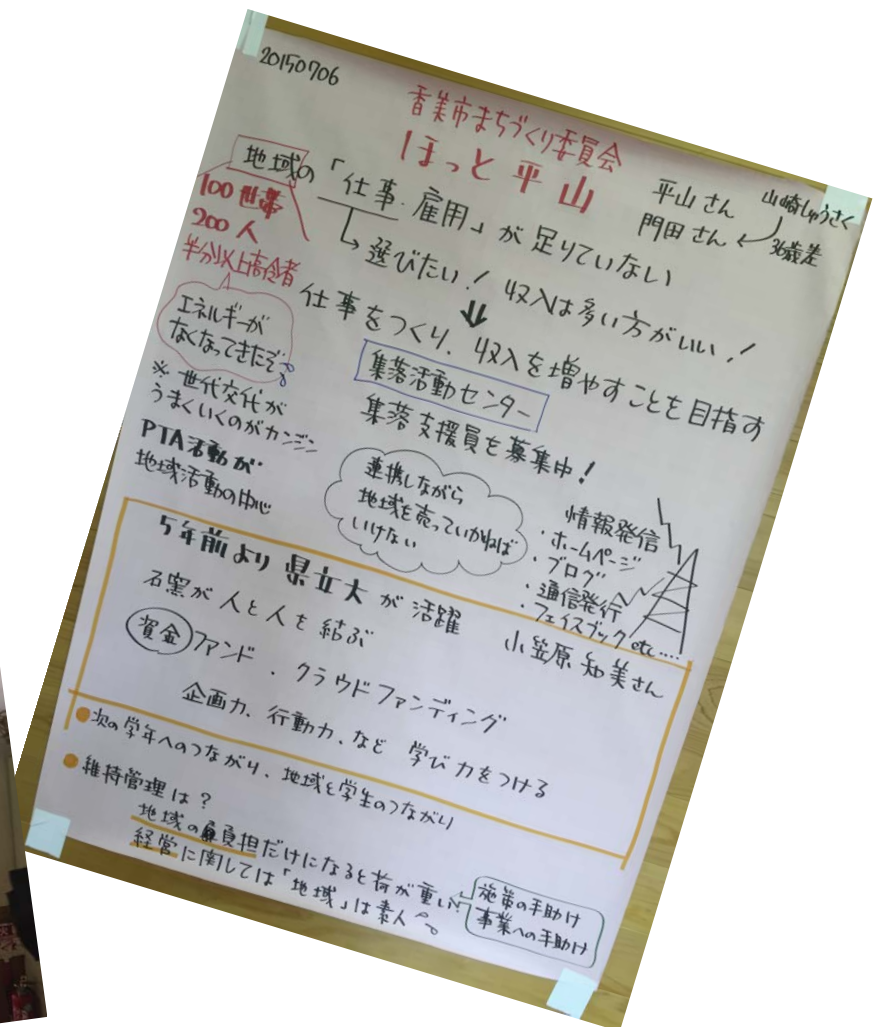
●大学との関わり

- ・5年前より県立大学清原ゼミが活躍
 - ・石窯づくりを通じて人と人を結ぶ
 - ・資金調達にクラウドファンディングを活用
 - ・学生は地域と共に企画力、行動力などを学び力をつけてきた
- <課題> 次の学年へのつながり、地域と学生のつながり



話題提供者

- ・平山 薫さん（ほっと平山運営委員会副会長）
- ・門田隆稔さん（ほっと平山施設長）
- ・小笠原知美さん（高知県立大4年生）



香北 アンパンマンミュージアム周辺が紡いできた「つながり」の広がりを知る

【大川上美良布神社案内】

社務所まんが天井画（今年5月奉納、公開）の鑑賞。

6月より始まった神社の活用アイデアの一つ「縁つなぎ市」などについて説明。

【アンパンマンミュージアム周辺活性化協議会について】（御通夜殿にて）

平成4年 「健康センターセレネ」開業

平成5年 道の駅登録

平成6年 ホテル「ピースフルセレネ」開業

平成8年 「アンパンマンミュージアム」オープン

平成10年 「詩とメルヘン記念館」オープン

●これまでもアンパンマンミュージアム前の広場を核として、広場周辺施設（ミュージアム、健康センターセレネ、にろうの里）関係者による情報共有は行われてきていた。

●今年、広場に盛土ステージができたことをきっかけに「協議会」が誕生。

にぎわいをまちなかにまで広げていこうと、より広い人々に声かけを行いワークショップを企画（第1回を7月28日に開催予定）

狙い：ここに暮らしている人が「暮らしてよかった」と思えるように！

【質疑応答】

Q、神戸との差別化でもっと田舎をウリにしては？

ー全国にアンパンマンミュージアムは5館あるが、最も自然豊かでやなせ先生の思いが生きている場所だということで人気は根強い。

Q、食事する場所が少ない。にろうの里、ピースフルセレネの他にも増やす必要があるのではないかと？

ー周辺にお洒落な話題性のあるカフェが増えてきている。連携して案内することで香北町での滞在時間が伸びることにつながっている。今後さらにサービスが高められるようシステム化したいと考えている。

Q、リピーターつくっているか

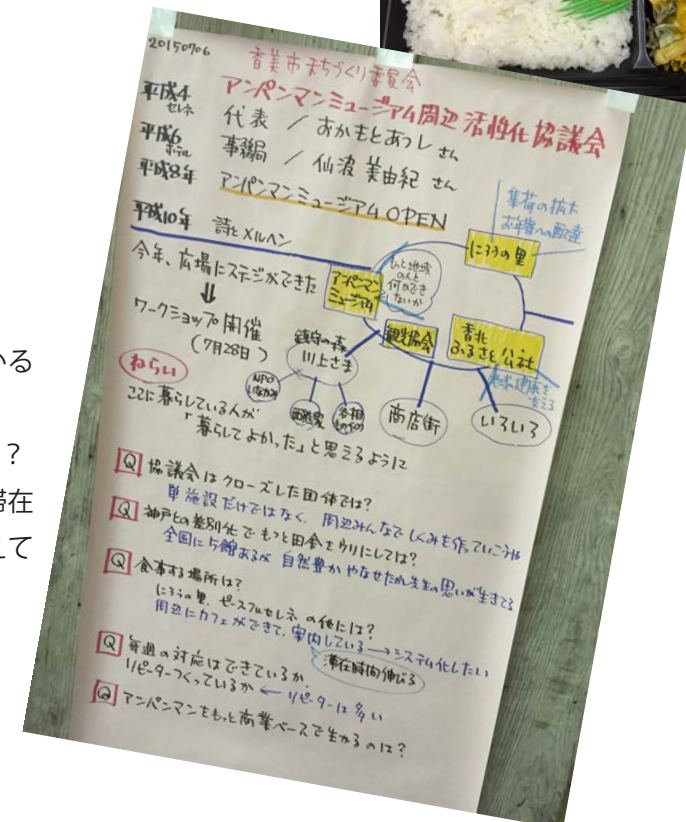
ーリピーターが非常に多いエリアであることが自慢

話題提供者

- ・甲藤英明さん（大川上美良布神社宮司）
- ・清水利通さん（氏子総代会長）
- ・おかもとあつしさん（アンパンマンミュージアム周辺活性化協議会代表）
- ・仙波美由紀さん（やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団事務局長）

◎昼食

香北町「円月」特製の山の幸弁当



物部 大西地区の移住者が育む地域の「つながり」に触れる

【勝見友彦 さん】

福島に生まれ東京都心で育ち、3年前に物部町大西へ“身軽に”引っ越してきた。

「ものづくり」は暮らしそのもの、言葉ではない伝え方がしくて東京ではない場所でそれが実現可能なところを求めてあちこち見に行っていた。奥さんの友人が香美市にいるというだけで誘われ、気乗りはしなかったが渋々高知へ来てみたところ、パーンと広い空！無防備なタクシー！東京からから2時間も経たないうちに神母ノ木！あれ？自分の抱いていた高知のイメージと違うぞ、と嬉しくなってきた。たまたま梅原真さんとも会え、話せた。さらに人を紹介されて大西に来てみたところ「暮らしがちゃんとある」といっぺんで気に入った。ちゃんとした暮らしがある大西には人がいる、だから人が来る・集まる。骨を埋めるのではなく、いつも「いい関わり方」を探して住むところもを見つける。ここは人の距離感がいい。

●移住促進・・・まんじゅう食べさせて「移住して来い」は間違い。これでは弱い人が来てしまう、まんじゅうを食べ終わった後に生活が持続できなくなった例もある。地域にとって大事なのは自分で自立できる人が来ること。アシストの手段が大事！移住促進の本質は「人数」ではなくどんな地域に育てていきたいか。

※(参照) 今年1月に香美市中央公民館で行われた、勝見さんの講演会を紹介した「いなかみライフ」の記事

<http://inakami.net/immigrant/katsumikouen-1975.html>

【勝見麻子 さん】

大西の感想は「雑草が元気！空気がおいしい！お茶がおいしい！」こと。友人や親に来てもらったら、みんなが元気になってくれるくらい。

田舎に住む上で絶対必要なのは草刈り作業！これさえこまめにしておけば集落の方々に認めてもらえる(笑)

【藤田希民子 さん】

14年前に田舎暮らしへのあこがれだけで物部にやってきた。「あたなが来て人があふれるような地域にしてね」というメッセージとともに100坪もある家を格安でゆずってもらった。

1日8時間×5日(※会社勤め)の暮らしが嫌(笑)、猟師さんから分けてもらった猪のラードで石鯰を作ったり、鹿を解体する技を身につけて田舎暮らしを続けている。

今の太西を良くしたい

楽しい地域に育てていきたい

話題提供者

- ・勝見友彦さん (baseworks 代表)
- ・勝見麻子さん
- ・藤田希民子さん (山の石けん屋西熊家)

◎おやつ

香北町「コンビニおかばやし」
のシフォンケーキ

